様式３

会　　議　　録

□全部記録　　■要点記録

１　会　議　名	第２回姫路市文化芸術振興ビジョン検討懇話会
２　開催日時	令和８年８月２５日（火曜日）　１５時００分～１６時３０分
３　開催場所	姫路市役所本庁舎　地下１階　Ｂ１０１会議室
４　出席者又は欠席者名 （出席者）姫路市文化芸術振興ビジョン検討懇話会　委員８名 （事務局）観光経済局長、国際戦略室長、国際戦略室主幹　他２名	
５　傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴人　２名
６　議題又は案件及び結論等 １　姫路市文化芸術振興ビジョン骨子（案）について	
７　会議の全部内容又は進行記録 詳細については別紙参照	

	１　開　会(15:00) ２　議　題 （1）　姫路市文化芸術振興ビジョン骨子（案）について
事務局	【資料に基づき説明】
会長	骨子案の説明があったが、本日配布されている参考資料２は、前回の会議で話題になった事例の紹介になる。参考資料１についても触れてもらえるか。
事務局	【参考資料１の説明】
会長	それでは、どなたからでも結構ですので、質問をお願いします。
委員	参考資料１にある「ワードクラウド」は初めて見たが、非常に面白い。40 代から「芸術」が入ってきている。私も 10 代の頃は、芸術にあまり興味がなく、社会に出て自分の時間が取れて、そこから芸術や文化に興味が出てきた。やはり、本気で興味を持つのは 40 代くらいからかもしれない。10 代の「つくる」とか、20 代、30 代で「姫路」が中心に入ってくるのは風潮だと思う。
会長	世代による違いが見える資料で面白い。参考資料も含めて、質問あるいは感じたことから自由なディスカッションができればと思う。
委員	施策体系図はよくできていると思う。難しいのは、人を動かすこと。それが有料のコンテンツになると、とたんに参加者は減る。文化芸術を生業とする上で、自走することを考える必要がある。補助金は一時しのぎに過ぎず、芸術家は、お客様に何とか商品を買ってもらう努力をしなければならない。この案で進めていくことは良いと思う。
会長	今の意見は、施策体系図に関連付けると「ささえる」の４番に関連すると思う。この施策体系図は、とても良く考えられている。前回の皆さんの意見を踏まえ、強み・弱みの分析からキーワードを抽出し、それを散りばめて基本方針、施策の柱、具体的施策がある。これで決まったわけではないので、皆さまの意見で修正する部分もあると思う。特に具体的施策は、これからの検討になる。本日はビジョンの骨組みについて確認することになる。実現可能性も踏まえて、目標を実現するためにはどうすればよいか考えて

	いかなければならない。行政に任せるだけではいけない。市民、文化活動関係者、市民でなくても関わりを持つ者として、何ができるかを考える必要がある。
委員	私が高校受験した時には、受験科目に音楽と美術があった。皆受験のために音楽も美術も勉強してきたが、いつからかなくなった。今は内申等で高校が決まる。私は、その時代に生きていて良かったと思う。色々な絵を見たり音楽を聴いたりすることが学校の中でできて、幸せだった。
委員	昔は、市民会館やパルナソスホール、文化センター等で行われる演奏会のチケットの売れ行きが悪いと、色々なところに無料でチケットを配っていたが、ある時にそれをやめた。本当に来たいと思ってお金を払った人と、無料だから来ている人が混在していたのが、そうすることによって本当に来たいと思っていた人がくるようになり、気持ちよく聴けるようになった。しかし、無料だったら行くという気持ちの人は一定数存在すると思う。
会長	まずは無料で体験し、良いと思ったら次はお金を出してでも行くと思う人もいるかもしれない。
委員	最後まで無料のチケットが出ることを期待して待っている人も多かったと思う。それをできるだけ防ぐようにして、少しずつ良くなってきたと思う。
委員	市民文化協会の事務局が市役所の中にあったので、そういうこともあったと思う。その後、合併して文化振興財団ができ、今は当日券の販売に変わっている。昔は、誰も来ないよりも、多くの人に来てもらいたいという趣旨が強かった。
会長	客の入りがステージに影響するという声もあるので、客が入るということは大事だと思う。
委員	文化センターができた当時は、近隣にそういったホールがなかったので、色々な催しがあり、それなりの来館者がいたと思う。
委員	神戸は、震災の時に無料公演を多数行った。その結果、お金を払って来る客がいなく

	なったという大きな反省がある。無料招待券の取り扱いはすごく難しいところだと思う。特に若手の演者で知名度が低いとか、小難しく見えてしまう演目の場合、どうしても人が集まりにくい。客席の埋め方として、どういうところにどういう案内を出すのか。ただばら撒くだけでなく、将来の観客に繋がるような工夫をしている。
委員	骨子案に書かれている内容は、本当にどれも大事だと思うが、この方向に向かっていくために汗をかく人は誰なのかが重要であると思う。今は、アートを使って社会を良くしていきましょうという、アートマネジメントを学んでいる専門人材が生まれてきている。その存在をしっかり認識して、上手くここに巻き込むことを考える必要がある。熱心な市民ボランティアの方々を巻き込むために、誰が仕掛けをするのか。そこを認識しながら事業を進めていくことが大事ではないか。
会長	チケットの配付方法にしても、例えば、施策の柱の①「すべての人が文化芸術に触れる機会の拡充」に貢献できるような方法があるかもしれない。何か社会課題の解決に貢献できるようなチケットの使い方があるかもしれない、という意見だと思う。そういう工夫も含めて、アートマネジメントという領域、プレーヤーの育成は変わらず取り組む必要があるが、具体的施策⑤にある「文化芸術を支える人材の育成」にしっかり取り組まないといけない。
委員	美術館には学芸員がいるが、音楽ホールには学芸員がいない。アートマネジメントにすごく期待している。音楽の「学」の人はいても、マネジメントする人はまだまだいない。まずは資格を取得してもらい、マネジメントを覚えて、色々なホールで働く人が増えると良いと思う。
委員	チケット配付の話だが、高名な吹奏楽団などが来た時に、市内の団体やこども達に来てもらい、リハーサルを見てもらうといった事業はある。
会長	良い使い方である。
委員	アクリエひめじができ、かなりの人に利用されている。一方で老朽化対策が必要になる。そういうことも謳って活性化するイメージの文章があれば良いと思う。身近では、市民会館が来年で閉館する。アクリエひめじの中ホール等に利用が分散されるかもしれ

	ないが、普段活動している人からするとなくなることは大きいと思う。
会長	どのような書き方が良いと思うか。
委員	例えば、クラブ活動の地域移行で公民館利用等の話が出ているが、利用できるかは分からないので、他の施設についても考える必要があると思う。文化庁のアンケート調査では、活動しないのは何故かという問いに対して、近くに美術館やホールがないという理由が一番多い中、姫路市はかなり恵まれているのだと思う。
委員	文化だけでなく、姫路は、スポーツ施設も充実していると思う。市民が活動する場所も機会も増えているが、現代の人達は家から出るのが億劫になっている気がする。家の中で十分楽しめる時代なので。文化芸術は、生のものが一番心に響く。それを、上手く発信者が伝えていく必要がある。
委員	ヤマトヤシキ跡地の１階に入る施設は決まっているのか。
事務局	形としてはほぼできあがっている。今はソフトを作っているところになる。姫路城をパノラマで見ることができたり、姫路の案内をしたり、地場産品を販売するスペースもある。
委員	そこでロビーコンサートや若手の演奏会等を行うと、観光客も含めて立ち寄ると思う。商店街に人が集まって、経済効果も出るのではないか。通りがかりのところで「何かやっている」ということも体験につながるのではないか。駅のストリートピアノも良い試みで、「弾く、弾かない」よりも「ある」ことが大切だと思う。
委員	その施設は、大手前通り側か。
事務局	そうである。
委員	みゆき通り側に少しでもそういうスペースがあればと思うが、難しいのか。
事務局	現段階では難しいと思うが、何ができるか現場で考えていきたい。

委員	北側に姫路観光コンベンションビューローがあるが、また別の役割か。
事務局	あそこは基本的にはビューローの事務所である。新たな施設は、大手前通りの歩行者をターゲットにした観光や飲食店の案内である。
委員	参考資料１の「文化芸術の鑑賞」と「文化芸術の活動」で、「時間がない」と回答した人が多い。時間はあるが何かに割いている人達も一定数いるのだと思うが、本当に仕事が忙しい、あるいは育児や介護等の家庭の事情があり、会場に足を運ぶことが難しい人達もいると思う。生で鑑賞ができない人たちに対しては、リアルタイムや録画で配信するなどデジタルの力を活用すると、次は時間を作って生で見たいという呼び水になるのではないか。権利関係等の調整も必要だと思うが、これからの時代に合わせた提供の仕方の一つになるのではないか。
委員	ワードクラウドは、私も非常に面白いと思っていた。30 代に「自閉症」というキーワードがある。優先座席の設置など、障害のある人やその家族を取り残さないように、そういう人たちを対象にした芸術文化鑑賞の機会があれば良いと思う。
会長	取り残さないという言葉が印象に残った。社会包摂の考え方だと思う。足を運びにくい人のための工夫も、それに関わってくる部分だと思う。骨子案の中に紐づけると、施策の柱⑦の具体的施策⑯にも関わるかもしれない。複数の施策に関わる重要な提案だったと思う。
副会長	この施策体制図は、すごく良くできている。すべてを網羅していて、完璧だと思う。だからこそ、どこの市町村にもあてはまるように思う。このビジョンが姫路のものだと分かるようにできないか。施策の柱は、抽象的でも良いが、具体的施策で姫路市のことだと分かるようにしてはどうか。アンケートでも、「アクリエひめじ」という言葉が出てくるが、そういった固有名詞を入れると、これは姫路市のものだと分かると思う。
会長	姫路市らしさとして、固有名詞を具体的施策に入れるということか。
副会長	そうである。具体的施策に入っていると、市民が見ても分かりやすいし、インパクト

	もあると思う。
会長	ビジョンで姫路市らしさを表すことは難しいと思うが、固有名詞はヒントになるかもしれない。
会長	若者や興味がない人に、文化芸術の領域に踏み込んでもらうためには、フックというか、引っ掛かりのあるものの提示が必要ではないかと思う。
委員	飲食店でも、初めは友達に連れて行ってもらい、美味しければ自分でもまた行こうと思う。
副会長	観光でも、外国人が「ここ良いよ」とＳＮＳで発信すると、多くの人が集まることがある。どうすれば「ちょっと見てみよう」と興味を引くような発信ができるか。
委員	自分が気に入ったものはどんどん入ってくる。文化芸術に興味がない人は、情報さえ入ってこないのではないか。人は絶対に外を出歩くので、駅や公共施設等にチラシを貼るとか。ただ、そういうものを貼っても、興味がない人にはあまり意味がない。
委員	今はＳＮＳで発信することが常態化している。炎上商法は一歩間違えると恐ろしいが、あえて違う切り口で注目を集めている人達は実際にいる。全部が全部成功するわけではないし、一過性の場合もある。色々とチャレンジすることは良いと思う。
委員	文学の世界では、どのような発信をされているのか。
委員	文学では、ＳＮＳでの発信をしても、ほとんど反応がない。年齢層が高いこともあり、人海戦術でチラシや冊子を配るとか、口コミで広げていく方が効果はある。駅や公共施設にポスターを貼って目に付くようにすることも、一つの仕掛けだと思う。紙媒体をなくしてデジタル発信だけにするより、アナログの方が効果は高いのではないか。
会長	10～20 人の仲間を集めることは、ＳＮＳでは割とすぐできる。100～200 人を集めるとなると、学生の演劇の公演でも、結局紙媒体で広げていく。

委員	見てもらえるのは、結局アナログだと思う。チラシを配って、取るか取らないは別だが、見る機会がデジタルよりは多いと思う。
委員	チラシのデザインも重要である。新作の場合は、モーツァルトのこの曲を使うというような既存の情報が使えないこともあり、「現代演劇作家の書き下ろしです」と事実を全面的に打ち出すことがある。それをいかにキャッチーに見せるか、デザインで創意工夫が必要である。細かく言うと、紙の質や形も大事。まず視覚にどう飛び込んでくるかという工夫は大事である。
委員	手元に紙が残ることは、若い人であってもすごく大切だと思う。
会長	本日は骨子案が示された。具体的施策については、次回も含めて、意見をいただきながら完成版に近づけていくと思う。基本方針と施策の柱までについては、委員からは良くできていると評価いただけたと思う。これについては、一旦この流れで作業を進めていくということで良いか。
委員	異議なし
事務局	本日の議論で、印象に残ったキーワードが２つある。１つは「固有名詞」である。確かにおっしゃる通り、姫路市のビジョンにするのであれば、固有名詞が必要であるという意見はすごく刺さった。あとは、「ターゲット」だと思う。10～20 代に訴求させる、ＰＲしていこうというのは、もしかしたら間違えているのかもしれない。10～20 代は好きなものに没頭して、それ以外のものはあまり見えない年代だと思う。そう考えると、まずは小さいこどもだと思う。あとは、50 代ではないか。子育てが終わって自分のことを何か探し始めた時に、文化芸術に目がいくのではないか。10～20 代をないがしろにするわけではないが、ターゲットの考え方についてヒントをいただいたと思う。
会長	（自身が教員をしている芸術文化観光専門職大学の）学生は、こどもの時に何か引っかかったものがあったから、今、本大学にいるのだと思う。そういった学生が多い。演劇やダンスの道に行こうとしていたり、それを支えるアートマネジメントの道に行こうとしていたりする。こどもの時期に何を体験できるか、どういう提供の仕方ができるのかが大切だと強く感じた。

	3　閉会